

様式第 5 号（教育実習実施計画に関する書類）

教 育 実 習 等 実 施 計 画	
1	教育実習等の内容及び成績評価等
①	教育実習等の時期 4 年次 5 月～11 月
②	教育実習等の実習期間・総時間数 高等学校 2 週間（60 時間）
③	実習校の確保の方法 大学が近隣の柴田町、大河原町、白石市の教育委員会及び仙台市教育委員会に依頼し、確保した学校から、実習生が希望する実習校を選び教育実習を行う。また、上記のみでは実習校が不足する場合は、大学が実習生の母校に依頼し、実習生が内諾を得る。
④	実習内容 教育実習での体験・活動を通して、以下について達成されるようにする。 〈観察・参加、実習校の理解〉 ・生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握する。 ・指導教員の実施する授業を、視点を持って観察し、事実を実施するための組織体制を理解する。 ・学級担任や教科担任等の補助的な役割を担う 〈学習指導・学級経営〉 ・学習指導要領及び生徒の実態を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践する。 ・学習指導に必要な基礎的技術（話法、板書、学習形態、授業形態、環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用する。 ・学級担任の役割と職務内容を実施に即して理解する。 ・教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わる。
⑤	実習生に対する指導の方法 実習期間 5 日ごとに実習生から指導教員に送られた実習内容記録に基づき適切な指導を行うとともに、期間中 1 回以上、指導教員が実習校へ巡回指導（原則、研究授業実施時）を行う。
⑥	実習の成績評価（評価の基準及び方法） ※ 評価項目表、評価シート等がある場合は、本計画書に添付すること。 教育実習担当者が、教育実習校から提出を受けた「教育実習成績評価票」（別添）に基づき、「教育実習日誌」及び教育実習終了後に提出されたレポートの内容を加味して総合的に評価する。なお、「教育実習成績評価票」において D 評価（A～D の 4 段階の最下位段階）を受けた場合は、レポート等の内容に関わらず単位は認定しない。

2 事前及び事後の指導の内容等
① 時期及び時間数 〈事前指導〉 3 年次 4 月から 4 年次 4 月まで 9 回 〈事後指導〉 4 年次 10 月から 2 回（教育実習の未終了者に対しては別途対応）、計 11 回
② 内容（具体的な指導項目） 1. 教育実習の事前・事後指導は、「教育実習 I」の授業を中心に実施する。 2. 実施計画 〈3 年次〉 4 月 教育実習オリエンテーション（教育実習の理解と実習校の選択決定）2 回 10 月～1 月 教育実習の意義と実習校の理解、実習生の義務、指導の実際等の理解 5 回 ① 教育実習の意義と実習生の義務・責任 ② 学校現場の理解 ③ 指導の実際 1 ④ 指導の実際 2 ⑤ 教育実習の意義と実習生に望むこと（大学先輩教員等の講話） （4 年次） 4 月 教育実習直前指導 2 回 ① 教育実習の意義と目的の再確認 ② 教育実習生の義務・責任と心得の再認識 10 月～ 教育実習の事後指導 2 回 ① 教育実習の振り返りと「教育実践自己評価シート」（別添）の作成 ② 「教育実践自己評価シート」に基づく教員免許状取得のための課題の確認
3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。） ① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等 - 委員会等の名称 教職支援センター企画運営委員会 - 委員会等の構成員（役職・人数など） 委員長：教職支援センター長、委員：同センター長補佐他 12 名程度 - 委員会等の運営方法 毎月 1 回、年 12 回開催する。大学内の各学科との連絡調整、教育実習の運営、教育委員会・実習校との連絡調整、教育実習の評価等、教職課程の運営全般について審議を行う。 【委員会の組織図】 別途添付のとおり ② 大学外の関係機関（例：都道府県及び市区町村教育委員会など）との連絡調整等を行う委員会等（※学校体験活動を含む場合は、大学と学校との連携体制についても記載すること。） - 委員会等の名称 教職支援センター企画運営委員会 - 委員会等の構成員（役職・人数など） 委員長：教職支援センター長、委員：同センター長補佐他 12 名程度 - 委員会等の運営方法 毎月 1 回、年 12 回開催する。教育実習に関する大学外の教育委員会・実習

校との連絡調整や連携、在仙大学教育実習連絡協議会等の教育実習に関する学外組織との連絡調整や連絡について審議・実施する。

【委員会の組織図】

① の組織図と同じ

4 教育実習の受講資格
別途添付のとおり

5 実習校

教育 実習	体験 活動	学級数の合計	高等学校 4 2 学級
○	×	学校名	宮城県柴田高等学校(宮城県柴田町本船迫字十八津入 7-3) 学級数：12 生徒数：406 人
		教員数	42 人 (内訳) 校長1人、教頭1人、教諭29人、講師10人、養護教諭1人
○	×	学校名	仙台大学付属明成高等学校(宮城県仙台市青葉区川平 2-26-1) 学級数：30 生徒数：872 人
		教員数	93 人 (内訳) 校長1人、副校長1人、教頭2人、教諭43人、講師44人、養護教諭2人

年度教育実習成績評価票

大学名（仙 台 大 学）

実習校長名

印

学 部		学 科 専 攻	実習校名			
学籍番号			担当学年 学 級	年 組	担当 教科	
ふりがな 氏 名	男 女		指導教諭	学 級 教 科		
評 価 項 目		評 価	特 記 事 項			
実 習 態 度	基本的な実習 態度	A・B・C・D				
	教職員や他の 実習生との関 わり方	A・B・C・D				
学 習 指 導	指導案の作成 授業の準備	A・B・C・D				
	授業の実際 授業後の配慮	A・B・C・D				
生 徒 指 導	学級における 生徒指導	A・B・C・D				
	全般的な生徒 指導	A・B・C・D				
研 究 態 度	授業観察 教材研究 授業検討会	A・B・C・D				
	実習日誌の記 入等	A・B・C・D				
総 評		A・B・C・D				
出席状況等		出席日数	欠席日数	遅 刻 数	早 退 数	教 壇 実 習 の 回 数
		日	日	回	回	回

- 注 1 評価は、評価項目毎に行ってください。評価の「A」は特に優れているもの、「B」は普通であるもの、「C」は劣るもの、「D」は不合格にあたるものとします。
該当する評価を○で囲んでください。「総評」は、総合評価で、実習生に通知するものです。
- 2 特記事項は、評価が「A」、「C」、「D」の場合、必ず記入してください。大学における事後指導等の折、参考にさせていただきます。
- 3 裏面に評価項目毎の観点を、ご参考までに記載しております。

中・高等学校における教育実習の評価の観点

実 習 態 度	基本的な実習態度	- 勤務時間や実習日誌の提出期限を守るなど、規律正しい実習であったか - 服装や髪型等、社会人としてふさわしい身だしなみであったか - 挨拶の際の言葉遣いや対応の仕方等が適切であったか - 心身の健康を保持するための努力がなされていたか - 授業や特別活動だけでなく、校内の備品や掲示物等の整理・整とんをする等、学校生活全般に積極的に関わっていたか - 実習を通して自己形成を図ろうとする態度がみられたか
	教職員や他の実習生との関わり方	- 学級担任や教科担任及び他の実習生等と積極的に関わっていたか - 学ぶ立場としての自覚に立ち、指導教諭等の指導・助言を真摯に受け入れていたか - 教諭だけでなく、学校に勤務する職員等からも積極的に学ぼうとする態度が見られたか
学 習 指 導	指導案の作成	- 指導案を担当授業毎に作成していたか - 指導案には誤字・脱字がなく、丁寧に書かれていたか - 指導案の提出期限を守っていたか - 授業のねらいは明確になっていたか - 学習指導過程は、ねらい達成に向けて工夫されていたか - 生徒の実態を考慮して作成されていたか - 学習形態等の工夫がみられたか - 評価計画が盛り込まれていたか - 指導教諭の助言を謙虚に受け止め、指導案作成に生かされていたか - 教材・教具の準備が適切で、よく活用されていたか
	授業の準備 授業の実際 授業後の配慮	- 授業が分かりやすく、円滑に進行していたか - 発問や指示が明確で、適切な声量でなされていたか - 板書の文字が丁寧に、計画的に書かれていたか - 生徒の反応に的確に対応していたか - 実技の演示や実験・実習の指導は適切であったか - 次の授業に生かせるよう、授業のまとめが適切になされていたか
生 徒 指 導	学級における生徒指導	- 朝や帰りの会等には積極的に参加し、生徒理解に努めていたか - 業間休みや昼休み等の時間にも、生徒たちと関わっていたか - 昼食指導が適切になされていたか - 清掃指導が適切になされていたか - 教室の備品や掲示物等の整理・整とんの指導が適切になされていたか
	全般的な生徒指導	- 学校行事等に参加し、生徒の活動からも生徒理解を深める努力をしていたか - 学校目標や学年目標、学級目標を理解し、担当教諭と協力して生徒指導に当たっていたか - 特定の生徒に偏ることなく、一人ひとりの生徒を理解し、指導に当たっていたか - 生徒に迎合することなく、けじめある態度で指導していたか
研 究 態 度	授業観察 教材研究 授業検討会	- 学級担任等の授業に積極的に参加・観察していたか - 授業観察で学んだことを自分の授業に生かしていたか - 教材研究をよくしていたか - 指導内容について、予備実験や実習、資料収集をしていたか - 実験や実習、実技の手順等を綿密に検討していたか - 実践した授業を分析し、以後の授業に生かしていたか - 授業検討会では、積極的に発言し、その内容は建設的であったか
	実習日誌の記入等	- 実習記録として今後役に立つよう、成果や課題がよく整理されて書かれていたか - 誤字・脱字がなく、指導教諭等が読みやすい文字で書き、内容の推敲がなされていたか - 指導案等の資料がきちんと貼付されていたか

教育実践自己評価シート

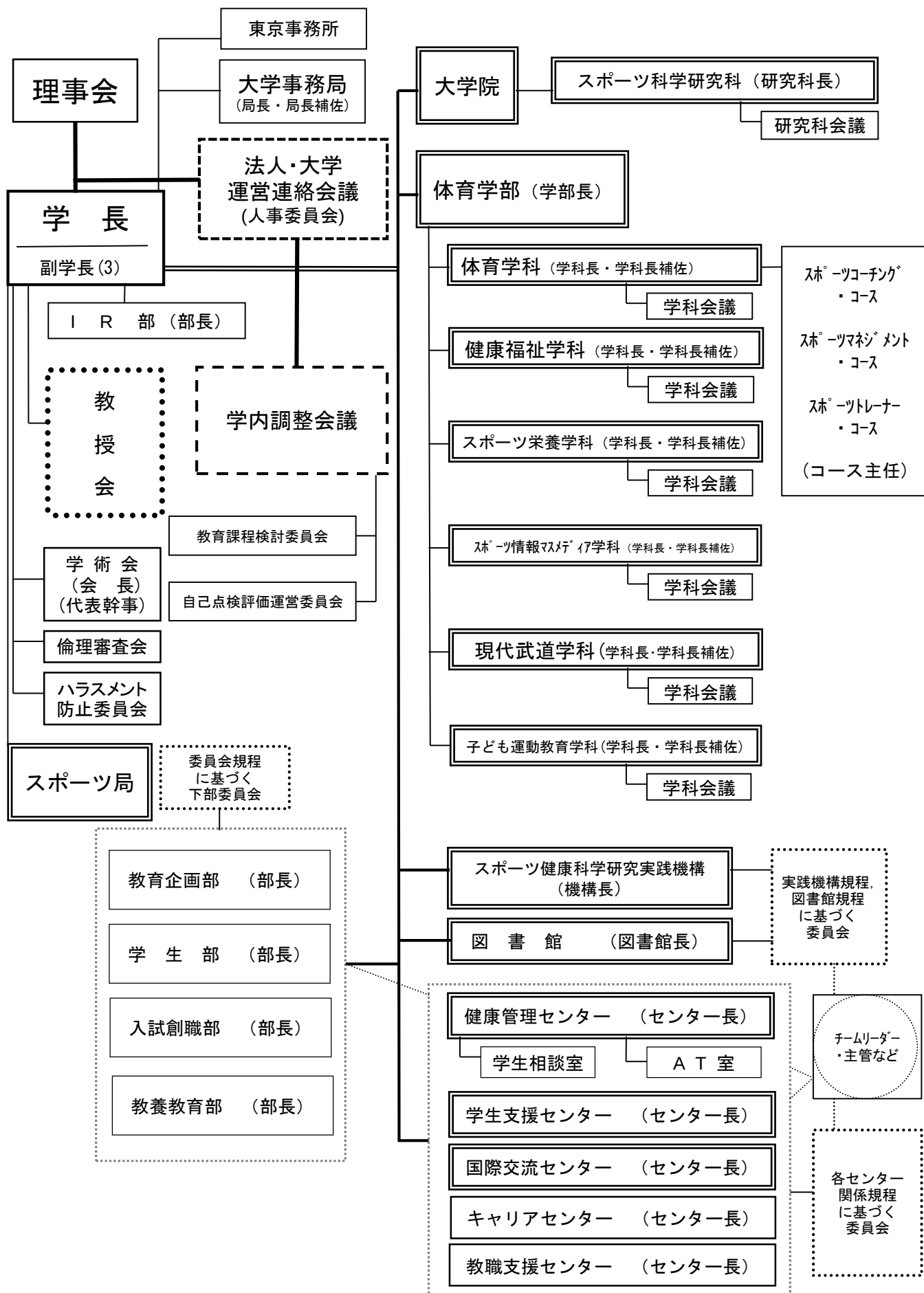
学科		学籍番号		氏名	
----	--	------	--	----	--

事項	項目(目標)	目標到達の確認指標	自己評価
教 使 職 命 の 感 意・義 責 任 感	教職の意義の理解	教職の意義や教員の役割, 職務内容, 子どもに対する責務を理解している。	
	社会的意義と責任	教員の使命や職務についての基本的な理解に基づき, 教員が担う責任の重さを理解している。	
社 対 会 人 性 関 係 能 力	他者意見の受容	教育活動を効果的に行うための様々な状況に応じた適切なコミュニケーションをとることができる。	
	社会性と協調性	組織における自己の役割や, 他の教職員と協力した校務運営の重要性を理解している。	
生 学 徒 級 理 経 解 営	子どもの発達・状況に応じた対応	子どもの学習状況, 悩み, 要求, 生活状況などを適切に判断する力を有している。	
	子どもの成長や安全, 健康に配慮した学級経営	いじめ, 不登校, 特別支援教育などについて, 個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解している。	
教 指 導 力 の 授 業 構 成	授業実践に関する力量	授業の目的・内容・方法について理解し, 学習指導の基本的事項(教科等の知識や技能)を身につけている。	
	授業展開力	基本的な授業技術(板書や発問, 的確な話し方など)を身につけ, 子どもの反応や学習の定着状況に応じた授業を行うことができる。	

教学組織体系図(教学組織規程第21条)

 学則上の組織

令和4年度



教職支援センター 組織図

令和5年3月6日

